

高度医療への貢献か、地域社会への貢献か?! 革新を続けるメキシコの看護教育

メキシコの大学看護学部はいつも工事中!?

メキシコ各地の大学看護学部を訪ねるたびに驚かされることの一つに、その都度、敷地に新たな施設が増築されたり、改築されている点がある。メキシコ自治大学大学看護師・助産師校 (UNAM-E NEO) では、それまで研究室だった部屋が分娩室を模した助産実習室に改築され、専門的な DVD 教材や参考書を販売するショップも規模が拡大されていた。屋上を見上げると、1 年の間にガラス張りのモダンな大学院研究棟が新築され、いつの間にかフロアには教員たちがパソコンや電話を使う活発な音が鳴り響いていた。E NEO の周辺は高度専門医療施設が集中するいわば「病院地区」である。教員の多くは 1 日の半分を臨床の看護師として勤務し、学生の多くもそのような専門的な治療センターへの就職を希望する。

E NEO と並びメキシコの看護教育において歴史の深い国立理工大学看護師・助産師校 (IPN-E SEO) では、大学構内に市民が簡単な診療や健康相談に来ることができる施設を敷地内に増設中であつた。新しい施設は一般市民に広く開放され、学生がより実践的な学習を行い、かつ市民に貢献できるプロジェクトとして 2010 年にはオープンする。来診した市民への対応は、それらを学課として課せられた看護学生たちが行う予定であるという。

メキシコの看護学生はいつも地域社会貢献型?!

メキシコの大学は 7 月が年度末であり、教員も学生も休暇をとる。IPN-E SEO ではこの休暇中、地方の州との協定に基づき、看護、医学、歯科、社会福祉、心理などの多学科の学生による「学際的グループ」を結成し、地方での活動プログラムを伝統的に実施してきた。学生たちは派遣された地方の教会や公民館などに泊まり込み、3-4 週間にわたるボランティア診療を行う。毎年 30 名程度の学生が参加し、参加した学生には単位が与えられるという。対応は主に内科疾患の来診者となり、予防接種、健康教育、家族計画、子供の健康診断 (体重や身長をチェック)、歯科検診などが求められるために、2 年生以上で単位を取得していることを参加条件とする。教員もボランティアで 1 名が監督として参加する。

改築工事の音が響く中、地域の特徴や伝統に基づいた各校の実践に驚きながら E SEO の学生ホールに足を向けてみると、そこでは 2009 年度にメキシコ州での社会奉仕に参加した学生 30 名への修了記念式典が行われ、1 年間に 100 件の分娩介助を達成した実習修了生が表彰されていた。実習修了生は地方でリスクの高い妊婦の分娩介助を通して、怖さや危険を乗り越え、母子への共感を学び、それらの死亡率の低下に貢献できたと発表していた。最後には大学校歌の大合唱とシュプレヒコール! 教員と学生が一体となって何度も何度も唱和する声に、いつしか自分もこぶしを振り上げ、大きな声をあげていた。

次に E SEO を訪れた時には、間違いなく構内で生き生きと市民に対応する学生たちに出会えるだろう。そして、その時にはその次のどんな準備が各校で始まっているだろうか。